芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町55

本校指定店
合資会社 芦屋写真室 撮影部 カメラ部
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋(二)四七三六番

第13回記念祭 新しい企画盛り込む

課題曲を決める 合唱コンクール

鑑賞会は新気風に

このほど第十三回記念祭の行事予定が生徒大会が承認され、正式に決定した。それによると日数、内容は昨年とあまり変わりなく、期日は九月二十六日（火）から十月一日までの五日間である。今年は例年と変化がないだけに、より充実したものをと、執行部でははりきっている。

本校創立を記念する意で設けられた記念祭も今年で迎えて十三回、年々派手になっていくのは事実だが一方次第に充実したものになっていっている。

さて今年の記念祭は執行委員会でその案が練られ、いくつかの案のうちから本案を選択、七月三日代議委員会を通過、七月十四日の生徒大会で正式に決まった。

行事日程は次の通り。

九月二十六日（火）前夜祭
二十七日（水）体育祭
二十八日（木）合唱コンクール、
校内音楽会
二十九日（金）講演会または鑑賞会
三十日（土）文化祭
十月一日（日）文化祭、終幕祭

なお、二十七日雨で体育祭が中止になった場合には二十八日の合唱コンクールと入れ変わる。

【前夜祭】まずこれで気勢をあげる。この時ばかりは芦高教師のタナ降ろし（といっても歌でだが）ができるのでまずは楽しみ。行事は例年と変わらず、運動場ではサークルダンス、講堂では軽音楽、歌声などをやるが、開幕式の時に花火を打ち上げ、興奮を刈りたてるそうである。

【校内音楽会】何をおいても全校生の協力が必要、われこそはと思わんかたは是非。

【合唱コンクール】各クラス団結力が必要。一昨年から新しく加えられたもので、〝全員の直接参加〟という精神に最も適している。

【体育祭】若人の祭典。日本晴れの秋空にその技を競い合う姿は美しいものである。――娯楽的になってきたといわれる原因の一つである仮装行列は今年も行なわれるが、あまり挑発的なものは避けたい。

【招待音楽会】身近かな講堂で高度の音楽に接することができる。先ごろ行なわれたアンケートの結果ではダークダックス、関学グリークラブなどが多かったそうだが招待できるかどうかはまだわからない。

【鑑賞会または講演会】まだどち調にらとも決まっていない。

【文化祭】文化部の祭典。「〝低なってきた〟といわれるが、講堂の部だけでそういうことをいわれては困まる、文化祭は展示会も含まれる。その展示会はむしろ良くなってきている」文化部長の話。

【終幕祭】いよいよ終わりである。例年通りファイヤーストームを行なってその幕を閉じるが、なにか奇抜なことをやるかもしれないとのこと。

このように各々計画されているが会長さんの話では、あくまで二年生が中心になり積極的に動いてほしいとのこと、〝全員の直接参加〟は全員の協力がなくてはならない、みんなで楽しい記念祭にしよう。

今年は南九州へ

〔修学旅行〕

梅雨も明け、これから本格的な暑さに入ろうとするこのごろ、二年生の間で〝修学旅行〟が話題にのぼってきた。そこで、今年の修学旅行の予定を二年主任の山田先生に伺ってみた。

期日は十一月七日（金）から、十一月十五日（火）までの五泊六日（うち二泊車中）、コースは南九州、中九州方面、三ノ宮―（車中泊）―熊本―阿蘇―熊本―（第一泊）―西鹿児島―（第二泊）―桜島―宮崎―（第三泊）―別府―（車中泊）―三ノ宮。以上が現在予定されている期日とコースであるが、旅館、その他詳しい日程などは未定である。なお、費用は六千五百円位の予定であるが、若干変動するようだ。列車は八車両で大部分が三人掛の予定。

一方、県立鳴尾高校（六車両）も同列車で山陽線を往復し、九州、小倉から、わが校は西から前記のコースを一周し、鳴尾高校は東から一周して小倉で結合する予定である。

今回の旅行は、日本交通公社、三ノ宮営業所の世話によって、兵庫県高校連合修学旅行団（参加二十一校）に参加するものである。

充実する運動施設

体育館　少なくとも八月中には着工、三月には必ず完成する。

館内にはバスケットコート二面、ダンスルーム、シャワー室などが設けられ、バレーコートにも使用できる。この体育館は県下で広さは神戸高校のものにつぎ二番目、設備は最高という立派なものである。

テニスコート　阪神電車の南側、現在畑のところに設定の予定。着工は、建設省の許可が下り次第行なわれる。コートは三面で硬庭が二面、軟庭が一面、使用の予定。なお、現在一番南側で使用されている軟庭のコートは、そのまま使用される模様。

プール　現在工事中であるが、体育館と同様に三月ごろ完成の見込み。

なおすでに完成しつつあった食堂は先ごろの豪雨浸水のため、使用できるのは二学期早々になるとのことである。

裏表独語

夏休みがやってきた。学生特権のありがたいものである。長い休みをいかに過ごすか芦高生も思い思いの計画を練っていることだろう。▽三年生諸君にとっては受験勉強の絶好のかせぎ時であり、またこの好機を逃がすことはできないだろう。しかし一・二年にとっては勉強の方ももちろん大切であるが、高校時代を存分に楽しむことのできる良い時期である。▽ここで注意しなければならないことは毎年のことながら最近芦高生の身だしなみが少し乱れてきたようである。「長髪にポマード、皮靴に原色の派手な靴下、かばんは旅行に行くのか勉強するために行くのかわからないようなもの」こんな姿が一部であるとはいえ、増えてきたことは見のがせない事である。▽休みに入り旅に出かける人も多くあることだろう。旅先の人々は旅に出た芦高生一人の態度・行動だけで芦高とはこんなものと判断するにちがいない。そんな時に学生の域をはるかに越えた派手な姿をしていたら人々はどう感じるだろう。夏休みぐらいは開放的な姿をしたいとは誰しもが思うことである。が、あくまで芦高生の誇りと理性を持って行動してほしい。▽ところで、長い休みが終わると芦高自治会の中で自治会選挙とならんで最も大切な行事の一つである記念祭が控えている。先ごろその日程が決まったが、この記念祭を生かすも殺すも芦高生の〝直接参加〟するという心持ちがきめてとなる。執行部では休み中にサークルダンス講習会を開いたり、合唱コンクールの充実化を計ったりして〝全員の直接参加〟をなんとか完全に実現せんものと努力している。芦高生も「記念祭は自分たちのもの」とはっきり自覚して立派な行動をとってほしい。▽また各部ともこの休みが勝負時、休みを無駄なく使用して記念祭の時には胸のすくようなものを見せていただきたい。▽「夏河を越すうれしさよ手に草履　蕪村」これからはますます暑くなって行く。水に親しむのも良いがくれぐれも注意をおこたらないようにしたい。

岐阜工業に栄冠

全国高校優勝弁論大会

本校弁論部主催、自治会共催の第九回全国高等学校優勝弁論大会は去る六月二十五日本校講堂で開かれた。

この日、全国から集まった弁士は三十一名、弁論開始が雨で聴衆が少ないため三十分おくれ、弁士はいささか気をそがれたとはいえ、いずれ劣らぬ熱弁を展開、ヤジも激しくとびかわった。

七名の審査員審査の結果、優勝杯は岐阜工業高校に、また準優勝杯は富田女子高校（岐阜）にそれぞれ手渡された。なお優勝した岐工高は過去三回準優勝している。

成績次の通り。（数字は七百点満点における獲得点）

①岐阜工業高校　則武健治君
「青年こそ若芽なり」　五八六
②富田女子高校　伊藤文子さん
「銅像の前に立ちて」　五八三
③八尾高校　松田田起子さん
「誇りを高く」　五七一
④比叡山高校　森田信也君
「言論について」　五六四
⑤岐東高校　浅野常久君
「恐ろしきもの」　五六二

今年の大会は、当日が雨であったためか例年よりも増して聴衆の減少が目立った。これでは遠くからはりきって大会にやってくる弁士にきのどくである。もっと弁論というものに理解をもとう。

部告!!

◎部員大募集

経験の有無を問わず。特に一年生で無所属の方は是非。

◎カメラマン募集

報道写真に興味のある方。

※希望者は七月二十日行事終了後、南館西階段を上ってすぐの出版部室へ。
また夏休み終了後でもよろしい。

◎芦笛原稿募集

豪雨で休校

去る六月二十六、七両日近畿地方を襲った「36・6梅雨前線集中豪雨」によって本校は休校した。このようなことはごくまれなことであるので生徒は大喜び（？）。そそくさと下校していった。なお本校生徒の家庭では大きな事故はなかった。

久志本君カナダへ

硬式庭球カナダ派遣少年選手選抜大会は去る六月十七・十八日の二日間、大阪うつぼコートで開催された。本大会には関東・関西からそれぞれ四名の選手が出場し、〝カナダ派遣〟をめざして、日ごろの実力を十分発揮した。

関西代表の一人として出場した本校の久志本君は、甲南高校の浅井君とともに資格を獲得し、七月二十日から八月十四日までカナダに派遣されることになった。

試合は、A・B両ブロックにおいてリーグ戦が行なわれ、Aブロックで浅井君（甲南）が、Bブロックで久志本君がそれぞれ優勝した。次にA・B両ブロックの優勝者の間で決勝戦が行なわれた。これで浅井君がA・B両ブロックを通じての優勝者となり、準優勝の久志本君とともに〝カナダ派遣〟の夢が実現した。

久志本君談　決勝戦では、中山君（慶応高）との試合で全精力を使い果たし、僕としてはいいところがなかった。浅井君とは過去六回やっているが、彼は僕の欠点をたくみに攻めて非常にうまかった。本大会の始まる前はこの大会に出られるかどうかさえ心配していた。

また新聞の予想にもぜんぜん載らなくて気分的にたいへん楽だった。それで僕の力が全部出せたのだと思っている。僕も選ばれた以上、日本の代表に恥じないように向こうでは存分に戦ってきます。（三年C組）

なお十四日（金）、試験終了後久志本君の壮行会が行なわれた。そして十六日（日）の特急「第二こだま」で元気に出発していった（都合により写真は掲載できませんでした。）

白井さんは比国へ

昨年十二月から今年の三月まで世界学生討論会へ出席するため、アメリカへ行っていたE・S・Sの白井知世子さん（三年H組）は、今度は東南アジア学生討論会へ行くことになった。八月フィリピンへ出発する予定。

クラス・マッチ

十五・七・八日の三日間にわたって行なわれたクラス対抗バレーボール大会の戦績は次のように決まった。一年男子I組、女子F組二年男子G組、女子C組三年男子B組、女子E組が優勝。

論説

〝自由の精神〟を見極めよ

本校の〝自由の精神〟が曲解されているのは、今に始まったことではない。しかし最近特にその傾向が著しい。夏季休暇を眼前に控えた今、もう一度真剣に反省する必要があるのではないか。

〝自由の精神〟を正しく解釈することは非常に困難な問題である。特にその限界を見極めることは不可能ともいえるだろう。だからわれわれが〝自由の権利〟を使しているつもりであっても、それは〝自由の精神〟の範囲を越ているかもしれない。

〝自由の精神〟が曲解されれば、それはもはや〝権利〟でも何でもない。一種の〝破壊的行為〟を生み出す〝利己心〟に過ぎない

前にもいったように〝自由の精神〟の限界を知ることは不可能に近い。一歩誤れば〝利己心〟の捕虜になってしまう。それではわれわれはいつまでも〝利己心〟の捕虜になっていなければならないのであろうか。

われわれは一人では生きて行けない。お互に助け合って〝生命の灯〟を消さないようにしなければならない。そこに自然と〝集団生活〟が現れてくる。これが〝社会〟である。〝社会〟において、個人の〝自由〟を確立することはむずかしい。お互が自己の〝自由〟を確立しようとすれば、自然とそこに摩擦がおこってくる。すなわち〝利己心〟の衝突である。そこでの衝突を防ぐものが必要になる。それが〝われわれの手で〟作った法律であり、規則であり、また〝校則〟である。

われわれは〝学校生活〟という、一種の〝集団生活〟の中に生きている。だから自己の〝自由〟を確立することは大切であるが、他人の〝自由〟を侵略してはならない。しかしわれわれはその限界を知らない。ややもすると〝利己心〟の捕虜になってしまいがちである。

しかしわれわれは〝利己心〟の捕虜になってはいけない。〝自由の精神〟と〝利己心〟の限界を見つけなければならない。しかし何度もいうようにこれを見つけるのは不可能に近いのである。もしかすると本当に不可能であるのかも知れない。

しかしわれわれは〝われわれの手で〟作った〝校則〟を持っている。〝校則〟は他人から押付けられたものではない。そこにはわれわれの〝自由の精神〟が貫かれている。個人の〝自由〟を確立さすために〝学校生活〟を円滑に回転さすために〝われわれの手で〟作った〝われわれの校則〟がある。われわれはこれによって〝自由の精神〟と〝利己心〟の限界をある程度知ることができる。もしもこの〝校則〟を正しく理解すれば〝利己心〟の捕虜から抜け出すことができるかもしれない。

しかし、これが求める〝自由の精神〟と〝利己心〟の限界ではない。求めるものは、はるかかなたにある。われわれはこれに甘んじていてはならない。本当の〝自由の精神〟と〝利己心〟の限界を探究しなければならない。ナポレオンは「私の辞書に〝不可能〟ということばはない」といったという。われわれも〝自由の精神〟と〝利己心〟の限界を見つける〝不可能〟を〝可能〟にしようではないか。

夏季休暇が眼前に控えている今このようなことをいってみても〝馬の耳に念仏〟であろうか。この夏季休暇を〝馬〟で過すか〝人〟で過ごすかによって、本校の二学期は大きく左右されるのである。せめて芦高生の誇りを少しでも持つのなら、馬に笑われない〝休暇の過ごし方〟をしたいものだ。

芦高生を探る

アンケート

最近の芦高生の高校生活に対する考え方や友情および政治的関心などについて調べるために、高校生活の意義・真の友情・高校の予備校化などの項目で、アンケートをとって見た結果がまとまりましたのでここに掲載いたします。

友情は育つ

第一問　高校生活の意義はどこに見い出されるか。

①解らない　三〇%
②勉学にはげみ、クラブ活動を行なうこと　二五%
③友人との交わり　二〇%
④社会人としての一般教養を身につける　一五%
⑤いまの高校生活から見い出されない　一〇%

①の解からないが多いことは残念である。このような人達はただ毎日を何となく過ごしているというのであろうか。やはり高校生活の意義を見つけ出し、高校生活を有意義に過ごすべきだ。このままでは、高校生活は灰色であるのではないだろうか。

②には「勉学にいそしみ、クラブ活動により高校生活の意義を見つけ出す」という意見が多かった。これは世間一般ではいわゆる灰色の生活と、いわれているものも学生にとっては灰色ではなく、楽しいものまた意義深いものであるということを示しているのであろう。また、クラブ活動に意義を見い出しているところは、芦高のクラブ活動の盛んな原因を示すものではなかろうか。

③には「友人との交りにおいて、高校生活の意義が見い出される」という意見は、高校において真の友情を勝ち得て、友情をはぐくんで行こうという積極的な友情というものが見い出される。

高芦生は個人的なことに意義を見い出す反面、また団体生活に意義を見い出している傾向が大きい。これはよいことではなかろうか。

第二問　高校生活において、真の友情は得られ、育つと思うか。

①育つ　七〇%
②育たない　一〇%
③その他　二〇%

「育つ」理由としては

○高校生にもなると、自分に一応の信念ができているため、自分の信念と同じのを持つ人との間には、真の友情が育つ。
○高校時代は、心身ともに複雑な時期であるため、真の友人を必要とする心が芽ばえてくるため

「育たない」理由としては。

○今の高校生活は、自分さえよければよいという、利己的な考え方の人が多いため。
○高校生活は三年間である。三年間というのは、友情を育てる期間としては短かすぎるため。
○高校生活は、勉強中心であるため

世界情勢に関心大

第三問　今一番何に関心を持っているか。

この問に対する答に三年と一・二年との間に著しい相違点が見られるので別々に表わして見ました。

三年
①受験勉強　六〇%
②世界情勢　一五%
③学生生活　一〇%
④その他　一五%

一・二年
①世界情勢　四〇%
②勉強　二〇%
③スポーツ　一五%
④その他　二五%

さすがに三年では、大学入試という難関をひかえているだけに「受験勉強」ということが全体の六十%も占めて一位になっている。これも年々激しくなる大学入試競争のためであろうか。また大きくゆれ動く世界の現状を反映してか世界情勢というのが第二位を占めている。しかし一、二年ではこの世界情勢と勉強が入れ代っている。一、二年ではまだ入試まで間があるという安心感から他のことに関心を持つのではなかろうか。そこで第三位にスポーツなどが顔を出している。まあ順当な結果であると見るべきであろうか。

予備校化はしかたない

第四問　高校の予備校化をどう思うか。

この解答の中には「反対ではあるがしかたない」というあきらめに似た意見が多かった。またはっきり「現在の高校では受験勉強に追われ人間的完成はおろか、読書の暇さえない。非常にかなしむべきことだ」という反対者も相当数あった。たしかに現在の社会の状態では良い大学を出ればそれだけ重要視され、良いポストにも着ける。そこで皆が大学に集中し、大学は入学難になる。そうすれば大学の一歩手前の高校で少しでも良い大学へということになり、ついには高校が予備校化してしまう傾向にある。そこで、「日本の社会を改めなくてはならない」というまことに極端な意見まで飛び出している。またそこまで行かなくとも、「高校とは情操を養うとともに、まことの学問を学ぶところであるべきはずだから、現在のような資本家に都合のよい機械的人間形成場となっているのは、いかんに堪えない」という意見もある。ところが、一方では「ある程度の予備校化は良いと思う」とか「芦高の予備校化は他校に比べてそれほどでもないので、もっと予備校化しても良い」といった予備校化を望む、今までとはまったく正反対の意見も見られた。このような意見の見られるのも、やはり少しでも良い大学へ、そして少しでも良い会社へという意識のあらわれか。よい大学に入り、よい会社に入るだけが目的で高校が存在するのなら、当然予備校化すべきである。しかし高校生活はそれだけではないはずである。

第五問　高校生活は楽しいか。

①楽しい　五五%
②楽しくない　三五%
③普通　一〇%

〃楽しい〃という理由として

○自由で活動的
○友達が多い
○クラブ活動が楽しいなど

〃楽しくない〃という理由として

○高校生活の予備校化
○勉学・友人関係が苦しい
○試験が多すぎるなど

やはり高校生活は楽しいという方が多かった。一日の四分の一以上を過す高校が楽しくなければ毎日毎日の生活がいかにおもしろくないか。けれども楽しくないという答が三十五%もあったということは注目に値する。その理由の中には、試験が多すぎることがあげられているが、これもやはり大学入試という関門のせいか。しかし学生である以上、本分は勉強にあるのであるから試験も仕方ないのではなかろうか。

毎日毎日通っている高校生活である。それが楽しくないという人が三分の一もいたということは本当に意外であった。けれども楽しくないならば、楽しくする工夫をする必要があるのではあるまいか。

第六問　尊敬している人は誰か。

この問で芦高生がどのような人を尊敬しているかがわかると、芦高生の心の内がよくわかると思いやって見た。

①解答なし　五〇%
②解答あり　五〇%

「解答なし」には、自分の尊敬する人を公けにすることもあるまいと、いうことが、あったのではないだろうか。また日ごろこういうことを考えたりしない人が多いのか、それとも余り本を読まないのだろうか。

「解答あり」の中では、非常に多岐に分れ、ベートーベン、福沢諭吉、リンカーン、シュバイツァー、親鸞、両親、先生などが比較的多くあげられている。また、現存している人物としては、両親、先生というのが多かった。

人間は葦に過ぎない、自然の中で最も弱いものだ、しかし、それは考える葦である　―パスカル―

ロダン作　ベルローナ

教壇随想

H・Rの楽しみ

国語科　村上治水

最近もらった転居通知、転居雑詠とあって〃梅天を隣れさせて居を移しけり〃〃西日まだ引越しの荷の片づかず〃〃白南風や越して妻との居り心地〃などの句が並び、転居のこと、子どものこと、そして奥さんがとも稼ぎをやめたことなどがしるされている。発信人は篠原時代の教え子の文学青年、一、二年に一度風のごとくに拙宅に来て、あれこれの文学談議、反社会的な人生歓を並べては帰って行く。このY君の奥さんが、また教え子であり、高校時代より部活動などで仲良かったようだが、いろいろの苦労の末結ばれたようだ。十数年前の教え子同志が結婚し現在も私と交際の絶えないことがうれしい。そういえば、教え子同志で結婚した者がかなりあることはほほえましい。夢野台時代にそれはとくに多い。

三年時に担任したクラスで、同級生結婚したのが二組ある。結婚式にも参列し、お祝のスピーチも述べさせてもらった。そのうちの一組は高校時代から仲良く、昼弁当のお菜をわけあったりするほどの仲が、大学時代二人が京大、西京大と、ともに京都であったことなどもあっていよいよ深まり、芽出たく結婚ということになったわけ。結婚前も結婚後も、二人で時々たずねてくれる。

もう一組の方もきわめて仲むつまじく、卒業後のクラス会の折も夫妻ともども現われては、皆をうらやましがらせている。

明るく楽しく、家族的な雰囲気が感じられて気持がよい。現在のように、学校が大きくなり、自分の専門の教科を教えるだけに、週二、三時間接するだけという師弟関係ともなれば、機械的、儀礼的な関係になりがちなのに、卒業後十年あまりたっても尋ねてくれる者が多いことは嬉しいことだ。

これには、いろいろと原因もあろうけれど、戦後の学校のホームルーム活動が盛んで、生活指導、学習指導を通じての個々の生徒との触れ合いが、家族的な暖かさを持つことも有力な点であろうと思う。

ホームルームという語感はすばらしい。喜びも悲しみもわけあう集団だという感じがしみじみとして来る。もちろん、私を訪ねる卒業生諸子のすべてが、担任した生徒とは限らないけれど、教師、生徒間を流れる親愛感の母胎は、ホームルームなどで培われるのではないかと思われる。

私が以前持ったホームルームは元気で、乱暴な感じの生徒の多いクラスであったが、たまたまそのころ転居したこともあって、十人以上手伝いに来てくれたことなどが縁になって、四十五人のクラスのほとんどの生徒が、当時二階借りをしていた文字通りの陋屋を訪ねては、あれやこれやと雑多な話をするうちに、その人たち一人一人とは、断ちがたいなつかしさで結ばれるようになった。こうしたやり方がいいのか、悪いのか、いろいろの見方は出来るであろうが、私にも生徒にも、そのころが今も、なつかしいものが流れていることは確かである。

クラブ活動とか、ホームルームとか、何にせよ、固苦しい感じで向い合う時でなくて、くつろいだ、いわばゆかたがけの気分で向い合った折の親近感が、先生と生徒を結びつけ、そうした気分が作られて後は、きびしいことも、辛いことも、お互の心が、あまりばらばらにならずに乗り切って行けるようにも思う。

一般に高校の先生は冷たいなどとよく言われる。これには、先生、生徒の両方に原因もあろうとは思われるが、卒業後、親しく高校の先生と交わっている人たちが、非常に多いことを思う時、その垣を開き、中に入った生徒は、大きな影響を先生から受けている者も多いはずである。生徒の方から近ずく努力をせずに、ただ冷たいというのもどんなものであろうか。勇気を出して、ホームルームの先生に、クラブ顧問の先生に、好きな、また苦手な科目の先生に、相談を持ちかけて行く。いつの間にか、垣はとられて、高校の先生のよさが、感じられるようになるかも知れぬ。

先生のよいところを引き出すよう努められることが望ましい。

「昨日はお休みの折を、突然お邪魔し、失礼致しました。最初ちょっと戸惑いましたが、たちまち、昔のあの先生の熱弁が再現され、本当に楽しい一時を過ごさせて頂きました」これは先日十二年ぶりに、Kさんが訪れた時の言葉である。

芦屋高校御指定
新刊書籍・雑誌・教科書
合資会社　大利昭文堂
阪急芦屋駅前　電話芦屋②3760番

本・雑誌
甲南堂
国鉄本山駅北　TEL(8)5700

第5回県下総合体育大会

バスケ、柔道善戦す

さる六月十、十一、十二の三日間にわたり、王子陸上競技場、神港高等学校体育館など、各会場で第五回県下高等学校体育大会が開かれた。

本校からも各種目に選手を送り、それぞれ力一杯の奮戦をした。今年は、昨年に引き続きバスケットボールなどが善戦したが、全体的にみると、昨年に比べて、もう一つふるわなかったようである。

◇県下高校体育大会戦績

体操（於、神港高校体育館）

団体　一位　飾磨高校
　　　四位　芦屋高校
個人　七位　伊藤（芦屋）
　　　十五位　松原（芦屋）

〔評〕規定問題を主に練習していたが、続かないところが出たりして、どうにか五位で予選を通過する。

しかし自由問題は練習不足で全体としてあまりふるわなかった。特に規定、自由両問題とも、徒手と跳馬がふるわなかった。これは体育館を持たない本校では、十分に練習できなかったためではなかろうか。今からは体育館もできるのでこれからはもっとよくなるであろう。

陸上競技（王子陸上競技場）

〔男子〕
百米
　古賀　二次失格
二百米
　古賀　二次失格
四百米
　野村　準決失格
　古賀　二次失格
八百米
　岸本　準決失格
　山口　二次失格
千五百米
　岸本　準決失格
八百リレー
　一次通過　準決失格

〔女子〕
百米
　牧岡　準決失格
　小田　二次失格
二百米
　牧岡　二次失格
走巾跳
　四位　牧岡公子　四米九六
　（近畿大会出場決定）

卓球部

〔男子団体〕
一回戦
　芦屋3−0飾磨工
二回戦
　芦屋3−1明石
三回戦
　芦屋3−1三田
四回戦
　芦屋2−3甲南
三位決定戦
　芦屋2−3長田
〔女子団体〕
一回戦
　芦屋1−3福崎
〔男子W優勝〕

軟式庭球部（神戸・西代コート）

団体
一回戦
　芦屋2−1六甲
二回戦
　芦屋2−1洲本
三回戦
　芦屋2−0市姫路
四回戦（準決勝戦）
　芦屋1−2市西

バスケットボール（王子体育館）

二回戦（六月四日）
　芦屋64（20−9　44−9）18育英
三回戦（六月十日）
　芦屋64（35−13　29−17）30尼北
四回戦（六月十一日）
　芦屋52（29−29　23−21）50関学
準々決勝戦
　芦屋53（37−25　16−24）49県工
準決勝戦（六月十二日）
　芦屋38（22−36　16−27）63神戸

柔道部（報徳学園体育館）

予選リーグ
　芦屋5−0淡路農
　芦屋2−1小野
決勝トーナメント
一回戦
　芦屋3−1市神工
二回戦
　芦屋4−0赤穂
三回戦
　芦屋5−0三木
準決勝
　芦屋0−1報徳

〔評〕予選リーグ、決勝トーナメント三回戦を通じ、皆よくがんばり楽勝し、準決勝でも四人まで引分けの大接戦となったがおしくも最後の大将北川がほんの少しの差で敗れ優勝の望みを失ってしまった。しかし全員ベストを尽くし善戦したことは賞賛すべきである。

山岳部（六甲山）
全国大会出場

◇カナダ派遣選手選抜大会
（於、大阪うつぼコート）
（Bブロックリーグ戦）
一回戦
　久志本（6−4　6−1）黒松（東海高）
二回戦
　久志本（8−6　6−2）平野（甲南高）
三回戦
　久志本（6−4　6−2）中山（慶応高）
A・Bリーグ勝者決勝戦
　久志本（4−6　3−6）浅井（甲南高）
　（久志本君、派遣決定）

デラックスな講堂

県立長田高校の巻

日本国中で大騒ぎを起した集中豪雨もやっとあがった土曜日、われわれ出版部の大（？）記者と、名（？）カメラマンは県立長田高校を訪ずれた。

長田高校は山陽電鉄長田駅から歩いて約十分、繁華街から少しはなれた高台の上に建っていた。坂道をフーフーいいながら登って行くと、やがて行くてに美しいクリーム色の校舎が見えてきた。校門まで出迎えてくれた同校新聞部の人に案内されてまず校内を見学して歩いた。

最初に目についたのは時計の多いこと。廊下のあちこち、校舎のいたる所に時計が見られた。残念ながらなぜ時計が多いのか聞きもらしたが本校にもあのようにいっぱい時計があったならば、もっと時間を守るようになるだろう。

それから講堂のりっぱなこと。千五、六百人を収容でき、二階席もあり、広々としたようすは本校のものよりはるかにりっぱで、なにか劇場へ行ったような感じがした。その他いろいろ校内を見せてもらったが、本校より少し設備が良いという程度であまり変りがないようであった。また同校には通信教育部があり、先徒は二千名くらいいるとのことであった。長田高校は今年で創立四十周年を迎え、また学校の南側に新しく運動場が完成し五月に盛大な「四十周年記念式」「運動場竣工式」などが行なわれたそうである。しかし新運動場は山を開いて作ったため、このあいだの集中豪雨で北側の斜面が崩れ、校章を形どって植えられた木も押し流されて、生徒を残念がらせた。それでも今までは狭い運動場に悩まされていたのが解決され、こんどは旧運動場にテニスコートやプールができると喜んでいた。

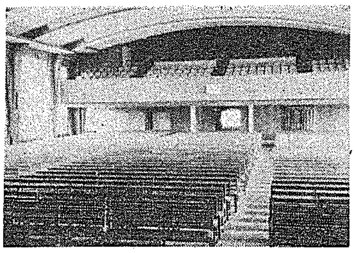
同校は全校生徒約二千百名（一学年平均四百名）で二対一で男子が多いとのこと。また就職は約百名程度でほとんどが女子で進学する者がほとんど。年々りっぱな入学率を示している。

クラブ活動は不活発で運動部では人数がたりないところが多く、部員集めに懸命とのこと。特に変ったクラブはないが、同好会として、エスペラント同好会、ユースホステル同好会などがあるそうである。生徒会への関心はどこかの学校と同じようにうすく、会長選挙のときも、今年は立候補者数は定員ギリギリ、これもどこかの学校と同じ。

長田高校は制服が決められているが、学校側はあまりやかましくいわず、また違反する者もないそうで本校同様自由な空気である。また同校の主な行事としては、わが校の記念祭のように文化祭と体育祭を一緒に行なっている。しかし今年は四十周年記念として文化祭が五月に行なわれた。これには賛否両論があり、これから文化祭を春にするか、秋にするかで大分問題になっているようだ。

また長田高校は本校の前川校長先生が六年ほど前まで第四代の校長をしておられた学校で、これは記者達には初耳で、聞いた後は、われわれはこの学校に一層親しみを感じた。前川先生は同校では戦災にあった校舎再建に努力されあのりっぱな講堂のある新館は、前川先生のときに建てられたそうである。

また初代学長は大変りっぱな方で、全国に有名だったそうである。今はその胸像が玄関の前のところにあって、同校の生徒を見守っている。その他いろいろ話がはずみ、気が付いたときはもう夕方遅くなっていた。


（講堂の内部）

文化部

合同発表会開かれる

去る六月二十四日（土）、本校講堂で、文化部合同発表会が開かれた。文化部は秋の記念祭以外、あまり発表する機会にめぐまれていないので、開かれたものである。参加したクラブは、コーラス部、E・S・S部、器楽部、箏曲部演劇部の五部で、各部とも少ない発表の機会を十分に生かし、りっぱなできばえを示した。

最初会場はガラガラで関係者を心配させたが、最後の劇がはじまるころには、ようやく会場もいっぱいとなった。

間野君第三位に

防犯弁論大会で

さる六月十八日（日）西宮教育研究所で開かれた、第四回阪神地区防犯弁論大会において、一年G組の間野興彦君が、「過を転じて福となす。」と題して熱弁をふるい、高校の部で第三位に入賞した。

なお、県下大会には、二位までで、おしくも出場できなかった。

校内展開かる

さる六月十六（金）、十七（土）の両日、本校講堂で校内展が開かれた。展示された作品は、いずれも各部の地味な努力の結晶であり、りっぱな作品が多く見られた。会場には、各休み時間毎に、熱心な観賞者で一ぱいであった。

なお、校内展参加クラブは、美術、書道、写真の各部。

透視

芦高に緑を

これからは、いよいよ夏という、暑い季節に入りますが、芦高には緑というものが少ないのではないでしょうか。

たしかに芦高には、ふじ棚とか池などはありますが、それは校舎の北側だけで、南側の運動場には、わずかしかありません。もっともっと木をふやして、夏の暑い日には、木陰で、屋外授業ができれば、どんなにすばらしいことでしょう。それに、学校のすぐ南側を通っている第二阪神国道が完成して、自動車の交通量がふえてやかましくなっても、木を植えておけば、防音の役にも立ちます。このように木をふやし、緑を豊かにすれば数々のよいことがあります。皆さん、われわれの芦高を、緑でいっぱいにしようではありませんか。

（一年P子）

男女共学について

この間、某君からぼくにこのような質問があった。「ぼくは道を歩いている時、同級の女子と顔を合せるのだが、そのような場合どのようにすればよいのか。」この時ぼくは笑った。しかしこのような場合に出くわしたとき、そのまま通りすぎているのではないか。「どちらも礼をするのがあたりまえだ」という人があるかもしれないが、それは確かにそうだが、はたしてみんなの何%が実行しているだろうか。その人たちも変な目でみられ、ひやかされるのがセキの山だ。そしてこれらのことがあたりまえのように思われている。男女共学の場合、昔の封建的思想が抜けぬとは困ったことである。このような考えが真の男女共学の意義を失ない、男女間の交際をわき道にそらしている。

まずこのような現実から実行していって本道にもどすよう努力しよう。

（I・U）

延長授業に思う

気候のせいか、だんだん授業がねむく感ぜられる季節になってきた。これに関係あるかどうか知らないが、よく授業を延長される先生がある。中には半ば常習的（？）に延長される先生もある。

しかし、ベルがなってからの授業は落ちつかず、頭に入らない。熱心なのは結構であるが、ぜひやめていただきたい。

（T生）

色のハイウェイ
120キロでハイウェイをぶっ飛ばす…こんな痛快なカラーフイルムです。
何しろいままでのASA10の感光度が5倍のASA50に飛躍したので、スポーティな動きも暗い室内の撮影もOKです。
そのうえ鮮明で美しい色調、世界水準を抜くスライド用カラーです。
さくらカラー　リバーサル
35ミリ　20枚撮　¥750
6×6　6枚撮　¥550
さくらフイルム
東京・日本橋
小西六写真工業

"高校生活のあり方"

三年　久山成子

焼けつくような太陽の下で、青春のエネルギーを向かにぶつけて、思いっきり燃焼させてみたくなる夏である。しかし、少なくとも私の心には、そんなファイトは消え薄れかけている。

運命に縛りつけられて身動きのとれない人生を考えると、およそ真剣に生きることが空しく思われるし、その上、何か大きな圧迫があって惰性で生きているような状態なのである。そんな虚脱状態から脱するために、改めて"高校生活のあり方"を再認識してみる必要があると思う。

自分自身の高校生活を考えてみて、まず第一にあげられる問題は勉学ではなくて受験である。実際、受験ほど高校生に圧迫を加えるものはないだろう。勉強勉強と周囲からいわれ、面白くもない参考書や問題集と始終ニラメッコしていなければならない受験生にとって、青春という言葉さえ、何か足を踏み入れられない他の世界の言葉のような感じを抱くのである。読書することも、人生を論じることも、恋をすることも忘れようと努めて、灰色の青春を送っている人は大勢いる。一体、高校生活は、そうあらざるをえないのであろうか。人生の最も大切な時といわれる高校時代が、無意味なまま終ってしまいがちなので良いものだろうか。

受験地獄にあえぎながら、なかば妥協し、なかば悲しんでいる高校生は口をそろえていう。

"社会が悪いんだ。生存競争に勝つためには、人を踏みたおしてもしようがないじゃないか。理想論をまくしたてたところで大学に入れなかったら敗北サ。"と。

なるほど社会は悪い。矛盾している。だからといってこの言葉を全面的に認めることはできない。

社会が悪いなどとぼやいている連中の心の中には卑怯なエゴイズムがうずまいており、責任回避でしかないようにさえ思われる。それ以上に悲しむべきことは、何と高校生は心が弱いのかということである。社会の矛盾を認めることは必要であるが、妥協は決してすべきではない。妥協がまた矛盾した社会を生み出すのである。

そんな悪循環のために、青春を売り渡し、その代償が大学卒の肩書きだとしたら全く泣きたくなるほど非情な世の中だ。

しかし、受験地獄の殻から出て大きな眼で人生を見つめてみると、きびしくとも決して非情な世の中ではないのである。自分たちの高校生活にだって、受験のためにすべてを犠牲にせずにはいられないかどうかを今一度考えてみよう。

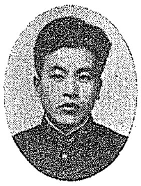
受験、受験と目の色を変えている高校生の二十四時間を正確に見てみると、実際は勉強するでもなし、遊ぶでもなしといった中途半端な時間が案外多いものではないだろうか。そのためにますますあせって精神的余裕がなくなりガリ勉に陥ってしまうのである。では何故空白状態が多いかを考えてみると、何よりも生きる目的をハッキリつかんでいないためだと思う。いかに現実的にわりきったところで三百六十五日間受験勉強に没頭できるはずはないし、またそんなガムシャラな勉強では大した効果はない。人間の生存理由を考えて、しっかりと勉強の目的をつかむことができたなら、たとえ高校生活の大半が受験勉強のために費されたところで、それは充実した勉強となり、人間形成の基礎をなすものであって、決して青春の犠牲ではないのである。時間に限界はあるが、ある程度まで使い方で余裕ができるのだから、少しは読書や人生を論じることも必要であるし、社会の動きにも眼を向けなければならないと思う。あまり受験にこだわりすぎてその殻に閉じこもってしまうと人間が小さくなってしまい、それこそ悲劇を通りすぎて喜劇といわねばなるまい。自分自身の生活を反省してみて、より充実したものに努力するだけのファイトがないならば、人間として無価値に等しいと思う。

人間は常に進歩を求めねばならない。いかに社会が悪くとも、それに屈してしまうほど弱くあってはならないのだ。諦める前にまず自分の力の限界まで努力することである。受験勉強することと生きることを両立させることは確かにむずかしいが、失敗したところで大切なのは努力の過程であって結果ではないのであるから、それを認識した上で大いに生きることに努めるべきだと思う。人生は限りなく広く大きい。どんなに不安であってもまた、淋しくても一人で生きていかねばならないのだ。高校生であり、一人の人間として強い心をもって人生を歩んでいきたいものである。

先輩通信

大学は要領第一

十四回生　渡辺義典



先輩の先輩たる所以は、要するに蛍の光と共に、トコロテン式に校門から放り出されるということであろう。

男児志を立てて郷関を出ずる"とばかり春浅い二月、夜行列車に乗り込んで東下りしてからもう三年にもなってしまった。

私にとって、芦高にいた三年間は、最高にイカス時代であった。夜遅くまでのクラブ活動や愉快なクラスでの出来事、記念祭には毎年舞台裏で働いたことなど、素適な想い出ばかりである。受験準備に追われながら遊んだのもスリルに富んでいて良かった。

なつかしの芦高をおん出されてから向とかモグリ込んだ大学ときたら、見ると聞くとは大違いで、そのマス・プロ的教育には全く驚いてしまった。全員出席したら座席が不足するのである。それ故、志のある者は世をはかなんで図書館にこもったり、サークル活動に熱中したり、あるいは軟化してマージャン屋に出入りし、デイトに精出し、あるいは下宿でゴロついているという次第である。

私の通う大学は学生数三万余その人的スケールは正に驚異であろう。パリパリの左翼からカチカチの右翼まで、スポーツカーで通学する者からパンと水だけで生きている者まで、あらゆる両極端を内包している。アンヴィヴァレンスの典型みたいな一大社会である。それでも伝統のせいか、尾崎士郎描くところの人生劇場にあるような気風は両極端の学生にもなお存している。コンパには必ず人生劇場の歌が出てくるのである。

試験に際しては、「要領をもってモットーとすべし」という戦陣訓が存在している。試験時のチーム・ワークは下位球団以上のものがある。私も英語のトラの巻をガリ版で刷って、配った経験がある。それ故みな講義にはあまり熱心とはいえず、自ずと専門的に勉強するか、せいぜい遊ぶこととなる。伝統の早慶戦には夜明けまで新宿はザブトン帽で埋められる次第となる。

若い男女の集合体ともいえる大学では、当然恋愛も盛んであって、その結果学生結婚するものがでても不思議ではない。彼らにいわせると、生活費が安く上がり、心が落着いて、良く勉強できるそうである。

こう書くと、われわれの生活は遊んでばかりいるようであるが、学生生活を表現するのに、ケインズやマルクスを云々するより、この方がいささかでも魅力的であろうと一人合点する故である。受験受験で日夜追われる高校生活にとって、大学に入れば遊びが可能であると教えることは、世紀末的宗教と同じく、つかみどころなくマッスの世界にあがく個人には、少しでも安易なフラストレーションの鎮静にもなろうかと思うからであるが……。学生に要求された生活も当然存在するのであって、研究活動は非常に盛んである。単に就職のために優の数をガメル者は敬遠され勝ちである。その反面、目立たないことでも何か一つの研究をコツコツとやる者は成績不良であっても尊敬の対象にされる。

古き良き時代の大学でない以上、日夜変化する社会のメカニズムの中では否応なくなんらかの問題意識を持たざるを得ない。現代の悲劇的一面は、否応なく問題意識を持たされても、巨大なメカニズムの中で、一個人の主体性があっけなく流されてしまうという、その相剋であろう。学生運動も、もはや単なる雷同では決してないと思う。特に去年の安保斗争の中では誰もがその相剋に悩んだのではないかと思う。

最後に、私は受験のための勉強には不賛成ではあるが、なんらかのオブセッションがあるというのも決して無駄ではないと思う。

後輩諸君が、勉強の合い間にも決して遊びを忘れないでいてくれることを祈る。

（早大第一政経）

"AとBの対話"

二年　月岡満彦

A　Bよ。貴様は悪い奴だな。

B　そうだよ、僕は悪人だ。

A　ウフ、貴様は馬鹿な奴だ。

B　そうだ、僕は馬鹿な男さ。だが、僕は馬鹿だが、馬鹿なりに生きて行きたいと思っているよ。

A　生きて行きたい。馬鹿な男だな貴様は、こんな世の中など生きてどうなるというんだ。

B　さあどうなるか知らない。だけど生きることは素晴しい。毎日毎々が実に楽しくてならないんだよ。

A　楽しい。貴様は余程の馬鹿だな。俺はこんな汚い世の中に生きたって何にもならないと思うがね。

B　汚い世の中？君はそう思うかね、僕には実に美しい世の中に見えるがね。

A　貴様はお目出たいからさ。

B　へエ、そんなもんかな。そりゃあ、僕にだっていやなことはあるさ。こんなことが平然と行なわれていいのかな、と思って正義の観念に燃えることだってあるよ。しかし、僕はあきらめない、やけにもならない、汚い暗い世の中であればあるほど、その中に生きて、少しでも世の中を美しくしたいと思うのだよ。

A　それは理想論さ、現実は甘くないぜ。口でいっていることがそう簡単に実行できれば、この世の中はもっと美しい世の中になってたろうさ。

B　そうかね、理想論だからってあきらめることはないだろう。やりもしないではじめからあきらめていたんでは何にもならんよ。何度も何度も失敗を重ねるところに面白いところがあるんではないかな。

A　人生は成功することでなくて、努力することであるか。口では何とでもいえるさ。

B　そうだ。それを実行しようというんだよ。口でいえることをね。

A　そりゃ、君がそんなにやりたいんなら好きなことをやればいいさ。しかし、一人や二人が正しいことをしたって、この世の中は正しくはならないんだ。後でそれに気がついてもそれこそ後の祭りだぜ。

B　あるいはそうかも知れない。しかし、誰も彼もがそんな考えになって正しいことが行なわれなくなったら一体この世の中はどうなるんだろう。僕はそれを思うと、例え僕一人でもいい人間らしく生きなければと思うね　そして僕が真心持って生きていればきっと誰かも真心を持って生きるようになると思うんだ。そんな人が一人増え二人増えして、最後には素晴しい社会ができ上ると思うのだ。それに、渡る世間に鬼はないといって、世の中の人は案外いい人が多いのだと思うね。少くともそういった意味では僕なんか悪人中の悪人だ。

A　そうかね、世の中にはずるい人間がずい分多いんだぜ、君は苦労していないからそんな夢見たようなことをいっているがね。

B　ずるい人？僕はずるい人にはまだ会ったことがない。こちらでずるい考えさえ持たず、真心持って接していれば人は皆この上ない善人だ。

A　やはり貴様はお目出たい奴だ

B　僕はお目出たい人間かも知れないけど、結構これで幸福だ。

A　フン、どんなことをいったって人生はさびしいんだ。人生は闇だ。だからやりたいことをやって、いつ死んでもいいようにしとくんだ。ふふ、そして死ぬ時は見事に死んでやる。

B　見事に生きる努力をしないで見事に死ぬことはできないと思うよ。

時

A　大部疲れたようだ。Bの奴どうしているかな。俺は何だかBの奴が恋しいようだ。

B　A君どうしたのだその姿は。

A　どうもしない、少し身体の具合が悪かったのだ。貴様に会いたかった。

B　そうか、僕も君に会いたかった。しかしとにかく会えてよかった。君に会えたことは僕にとっては喜びだ。

A　人間はなぜ病気するのだ。

B　さあ、それは人間が怠け者で堕落し得る動物だからだろう。自然というものはぬけ目のないもので、人間に肉体の苦痛という病気を与えて人間が堕落するのを防ごうとしているのだ。苦痛がなければ人間は病気になっても節制しないからね。だから窮屈かも知れないが、節制して健康を保つところに喜びがあるのだ。そしてできるだけ長生きするように。

A　長生き、ふん、俺なんか長生きすれば他人が迷惑がるだけだろうさ。

B　迷惑、君はこの世の中に君を愛しているものが一人もいないというのかい。それは君のいい逃れに過ぎない。君は人の親切を受け取らず、自分の利欲のためのみ生きて来たのではないかね。君自身人に対して真心を持って接しないで、相手の出ようによってこちらの出ようを決めるのは卑怯というものだよ。

A　俺はどうせ生れつきの悪人さ

B　そこに気がついていればどうして善人になる努力をしないのだ。

A　ああ！もう言わないでくれ！口では何とでもいえる。俺は疲れているんだ！

B　そうだね、君は疲れすぎている。少なくともこの世の中の人は皆疲れているようだ。正しい社会を作ろうと思えば、社会の人一人一人がまず健康になることが必要なのかも知れない。

クラブ Sketch

芦高の文学者たち

文芸部の巻

むし暑いある日の午後、私たち記者二名は、南館二階三四号教室の文芸部々室を訪れた。

室内では、部員たちが、円形に座って、例会の始まるのを静かに待っていた。記者はその間、部員の人たちにいろいろと質問してみた。

記者　さっそくですが、現在、部員は何名ぐらいおられますか？

A　現在二十名で男子八名、女子十二名、一年生は八名おります。

記者　例会はいつですか？

A　火曜日と金曜日です。

記者　例会では、主にどんなことをなさっているのですか。

A　討論会や批評会、句会、読書会その他いろんなことについて話し合ったりしています。

記者　発足はいつごろですか？

B　そうねー。花火が去年で十四号だから…十五年前です。

記者　このクラブでは、どんな出版物を出しているのですか。

C　今のところ花火と琴柱で花火は記念祭の時に展示し、琴柱は三月に出版しています。

記者　それらは、どのようにして手に入れたらいいのですか？

C　花火は記念祭のとき、一部五十円で売っています。また琴柱は部員を通して、一部三十円で売っております。

記者　他校との交換等は？

A　緑樹会（阪神間の高等学校の文芸部の連盟）に入会していましたが、部費、その他の理由で、去年脱退致しました。

記者　文芸部に入ると、どんな有益になることがありますか？

D　多くの文学作品を通して作者の種々な人生観に触れ、それによって、自分の人生の生き方というものがつかみとれるのではないでしょうかー。

記者　入部の動機など。

E　中学時代に入っていて、詩や作文を作るのが好きだから。

F　みんなと、いろいろなことについて話し合えるのが楽しいので入部しました。

G　自己を表現したかったしまた、自己を追求するために入りました

以上。で質問を終り、文芸部に別れを告げた。文芸部は、話し合いの場としては、最適のクラブであろう。楽しい親しみにあふれたクラブである。他のクラブでも、このクラブのように、話し合いの場を持って、お互に理解し合うということは、決して有益でこそあれ、無益なことではないと思う。